

地域おこし協力隊 ひらた通信

執筆・デザイン・編集：酒田市地域おこし協力隊 内藤 ^{さよこ}小容子【平田地域・東陽地区拠点】

庄内^{シブガキ}SHIBUGAKI隊プロジェクトが「こばいちゃひらた」に出展 ～柿渋塗り体験：地産材コースターと脱プラスチック・ストロー作り～



たくさんの方にご参加いただきました！

「庄内 SHIBUGAKI 隊プロジェクト」では、放置された柿の実を活用した“柿渋”（天然の塗料/染料）づくりを核に、地域おこしを実践しています。

7/18（月祝）、ひらたタウンセンターで開催された体験型イベント「こばいちゃひらた」に、同プロジェクトとして体験ブースを出展。地産材コースターと脱プラスチック・ストローを^{はっすいせい}撥水性のある柿渋塗りで仕上げる体験に、30名以上の方が参加してくださいました！

あり、ご不便をおかけしましたが、プロジェクトメンバーのみなさんと協力しながら、参加者の方々にプロジェクトについて直接ご説明することもできました。子ども連れからシニアまで幅広い世代に楽しんでいただけて嬉しかったです！中には海洋プラスチック問題（海に流れ出たプラスチックがさまざまな悪影響を及ぼしていること）を知っている小学生もいて、環境への意識の高さがうかがえました。

コースターの材料は、眺海の森「森林学習展示館」から、森の案内人（ボランティアスタッフ）の方々が地域で伐った広葉樹などの材を譲っていただいたものです。ありがとうございました！ストローの材料については、今回は遠方から偶然入手した竹材を使用しましたが、ゆくゆくは耕作放棄地や河川敷の葦を利用するなど、地域の未利用資源をうまく活用していきたいです。

ご参加くださった方々、プロジェクトメンバーはじめご協力くださった方々、もっけでした！



集落の柿の木を調査中！情報をお寄せください



8/4（木）に東陽地区北俣の円道集落で、自治会長さんにご協力いただき、柿の木等の果樹の調査を行いました。実際に歩きながら集落を見てみると、想像以上に柿の木が多いことに加え、これまで見過ごしてきたさまざまなことに気づきます。お家にいる方々にお話を伺いながら歩いたので、建具屋さんが柿渋利用のために植えた豆柿のことなども分かりました。

8/8（月）には同地区北俣の中村集落の自治会長さんから、聞き取りで柿の木の位置を把握しました。

ご協力くださったみなさま、もっけでした！他の集落も引き続きよろしくお願ひいたします。

【予告】「^つ作/^ぐ造/創っぞ！柿渋！！」8/28（日）開催

～青柿収穫と柿渋仕込みの体験型イベント～

庄内 SHIBUGAKI 隊プロジェクトでは、柿を青いうちに収穫し、柿渋の仕込みを行う体験型イベントを 8/28（日）に開催します！“青い”「渋柿」から“茶色い”塗料・染料である「柿渋」ができるまでの最初のステップを体験してみませんか？

詳しくは平田地域で別途回覧するチラシをご覧ください。



山形新聞「地域おこし隊員奮闘中」リレー式コラムで紹介

～「里地里山」魅力伝えたい～

8/2（火）付けの山形新聞において、「地域おこし隊員奮闘中」というリレー形式コラムで、私の活動を紹介していただきました。ありがたいことにさまざまな方から反響をいただいています。もっけです！

前職（環境省の自然保護官）のイメージから単に「自然を守りたい人、生きもの好きな人」と思われてしまうこともあるかもしれませんが、平田地域のような中山間地域においては、「自然と共生していくことこそが、地域を元気にすることにつながる（あくまで目標は地域を元気にすること）」という信念をもって活動しています。

地域に固有の文化や生業は、地域の自然に根差していて、そこに支えられているからです。そうした風土を「地域の宝」として、地区内外に、さらには後世に伝えていけたら…と願っています。

ここ数年「SDGs」という言葉が広がり、これまで地域で培われてきた生活の知恵や資源を循環させる営みに、ようやく脚光が当てられつつあります。

それは「便利」「効率」を求める現代の暮らしには一見逆行するようなことかもしれませんが、地域の方々の苦勞に寄り添いたいと思っている私自身、悩むことも多いのですが…。

うまく現代の暮らしと折り合いのつけられる方向を見つけたいです！



紙面には一昨年に当時の田沢小の 1・2 年生と旧阿部家の葺き替え見学をした時の様子を掲載

■さよぼーの想い（編集後記に代えて）

この度の大雨で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。8/6（土）の「酒田花火ショー2022」が中止され、とても残念でしたが、平田地域に工場を構える“山形県唯一の花火製造業者”「(有) 安藤煙火店」さんの応援も、また別の形でできればいいですね！



やっと見つかったヨシノボリ

8/14（日）の「川まつり in 東陽 2022」に向けて、8/6（土）に、最上川第八漁協組合員などの有志の方々と一緒に、中野俣川の生きものの事前調査を行いました。護岸工事等の“河川整備”や川底が均一になっていく変化に伴い、生きものの暮らしにくい環境に変わってきているようです。“自然からのめぐみ”と“自然による災い”は表裏一体…そのバランスを考えさせられます。

